

令和2年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝（6：00から9：59時まで）、昼（10：00から13：59まで）
 夕方（14：00から17：59まで）、夜（18：00から21：59まで）、
 深夜（22：00から1：59まで）、早朝（2：00時から5：59まで）

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所 (鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
1	1	12:40頃	昼	戸建住宅	不明	居室	不明	ローソク	居住者	段ボール製後飾り祭壇上の火の灯ったローソクを設置したローソク立てが転倒したことにより、祭壇に掛けてある化学繊維製の白布に着火したものの。	居住者は12時10分頃、自宅2階和室に飾っている段ボール製の後飾り祭壇上のローソク立てに設置した長さ約16cmのローソクに火を灯した後、和室の西南西側隣室である居間の西南西側隣室の寝室にて、親族とともに、遺品整理作業を行っていた12時43分頃、住宅用火災警報器の鳴動音と同時に、キナ臭さ及び煙状の霧のようなものを感じたため、和室を確認すると祭壇から幅約1mの炎が天井付近まで立ち上っていた。直ちにインターホンにて1階に居住者に火災発生を伝えた後、洗面所に設置しているバケツに汲んだ水道水を祭壇に向けて2度掛け初期消火を試みるも、消火には至らなかった。 通報者は、付近の市道を自家車で走行していた12時44分頃、発災建物の2階居室から白煙が噴出し、炎が屋根軒下まで立ち上っている状況を確認したことから、12時45分、携帯電話にて119番通報を行った。
2	1	調査中	深夜	防火造3階建て	煙式	その他 (不明を含む。)	その他 (不明を含む。)	その他(調査中を含む。)	入居者	調査中	発見者は、就寝中に住宅用火災警報器が鳴り、起きて確認しようとしたが電気がつかず、屋外を確認したところ煙の臭いを感じ、家族を起して避難したものである。 通報者は、寝室から居間がオレンジ色に見え、屋外を確認したところ、隣家の建物全体から火と煙が見えたことから所持していた携帯電話で119番通報したものである。 避難を優先したことから、初期消火は行っていない。
3	1	8:38頃	朝	戸建住宅	煙式	台所	台所	その他	緊急通報システム	薪ストーブ上にて魚を焼いたままその場を離れた。	家人が薪ストーブ上でアルミホールを敷き、魚を焼いている最中にその場を離れ、トレイに行った間に魚が過熱され、焦げて煙が発生し、台所に設置していた煙感知器が作動。管理会社を通じて消防覚知。家人が警報音に気づき台所に戻ったところ、魚から煙が出ていた為、魚を台所机上に移動したことで火災には至らなかったものである。
4	1	2:43	深夜	アパート・マンション等	煙式	台所	就寝室	その他	通行人	土鍋の空焚き	25日午前1時40分頃、母親を職場へ迎えに行くため外にでたところ何かの臭気と警報音を確認したがそのまま迎えに行き、2時40分頃帰宅したところ共用部分に薄い煙と警報音を確認、母親とともに警報音が聞こえる103号室へ向かい呼んでみたが反応がなく、ドアが開いたことから中を確認すると中は見えるが白煙で覆われている状況を確認し通報に至ったもの。
5	1	19:57	夜	飲食店兼下宿	煙式	居室	2階下宿部分の居室	たばこの火の不始末	関係者	たばこの不始末により寝具に着火し、出火したものの。	たばこの不始末により寝具に着火し、出火したものの。 この警報音と煙に屋外にいた関係者が気付き119番通報を行った。初期消火については、隣人が行った。
6	2	18:00	夜	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	こんろの消し忘れ	18時頃、台所にて夕食の準備をしていた家人がこんろの火を消さずに買い物に行き、帰宅後台所の住宅用火災警報器が発報しており覚知。台所に煙が立ち込めており、鍋の中の煮物が燃えているのを確認し住宅にあった消火器により消火する(同日18時25分頃)。翌日の16時38分に家人が消防署に來署し事後聞知として消防覚知に至る。その後、消防隊により現場の確認に行き建物内部を確認し鍋以外に焼損は無く、周囲への延焼も無し。
7	2	19:00	夜	戸建住宅	煙式	居間	台所	その他(不明を含む。)	居住者	集合煙突手入れ不足による	居間にいた居住者の夫が台所に設置している住宅用火災警報器の鳴動を確認したため、別室にいる居住者の妻へ確認するよう依頼。妻が台所を確認すると、全体に白煙が充満しており、居室と台所間に設置されている薪ストーブの煙突とめがね石の接続部より灰色の煙を確認。薪ストーブ内の薪を取り出し、集合煙突点検口の確認を行っている、めがね石付近より火災を認めたため、消火を試みるも消火に至らないことから119番通報に至る。 消防隊到着時に火災を認めたものの、焼損表面積1㎡未満のぼやに留めた事例である。
8	2	14:50頃	夕方	アパート・マンション等	熱式	台所	台所	こんろ	居住者	フライパンで揚げ物を作ろうと動植物油を加熱していたところ、子供が泣き起きたため、火を止めてあやしにいったつもりが誤って火力調整ツマミを全開にしており、動植物油を加熱し続け出火したものである。	居住者が子供をあやしに行き15分位した時、住宅用火災警報器の音が聞こえ、天井を見ると白い煙が充満していたため、慌てて台所に行くところフライパンから炎が見えた。居住者が購入した住宅用火災警報器で初期消火を実施、炎は消えたが煙が部屋中に充満していたので、消防へ通報したものの。

令和2年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝（6：00から9：59時まで）、昼（10：00から13：59まで）
 夕方（14：00から17：59まで）、夜（18：00から21：59まで）、
 深夜（22：00から1：59まで）、早朝（2：00時から5：59まで）

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所 (鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
9	2	16:52	夕方	戸建住宅	熱式	台所	台所	こんろ	居住者	天ぷら油を加熱したまま放置したもの	発見者Aは、1階自室に設置された住宅用火災警報器（連動型）の作動により台所での火災に気付いたものである。通報者Bは台所で料理をしていた者で、てんぷら油を加熱したままその場を離れて2階にいたところ、住宅用火災警報器の警報音に気付き、台所に戻り火災を発見。粉末消火器で初期消火後に通報を行っている。